

来て!見て!知って!文化財

元素楼跡

世界遺産登録の動向と共に 玉井1468

現在、群馬県にある「富岡製糸場と絹産業遺産群」は世界遺産への登録に向けて注目を集めています。これらの遺産群とつながりのある文化財が熊谷にも所在しています。それが市指定文化財史跡の「元素楼跡」です。この文化財は蚕糸業の先駆者として著名な鯨井勘衛という人物と深く関係しています。

天保2年(1831)、榛羅郡玉井村に生まれた鯨井勘衛は、文久3年(1863)に、蚕種の製造を始め、慶応2年(1866)、埼玉県初となる桑園を荒川の河原に開きました。明治2年(1869)には、蚕糸改良の目的で、屋敷内に3階建て間口16間、奥行8間の大蚕室「元素楼」を作り、自然の気候により飼育する「清涼育」という稚蚕飼育法の伝習に務めました。

元素楼における蚕種製造は成功し、その伝習を受けるた

めに全国各地から訪れる人が後を絶たなかったとされています。更に、時の昭憲皇后、英照皇太后両陛下が富岡製糸場へお出かけになられる途中、元素楼に立ち寄り養蚕の状況をご覧になるなど、一躍脚光を浴びました。勘衛らによって成し得た養蚕技術の向上が、関東地域での繭生産の増大をもたらし、富岡製糸場への原料の供給を下支えしたのです。

元素楼は、昭和になり解体されましたが、跡地に行啓記念碑が建てられており、熊谷における養蚕の歴史を伝える大変意義深い史跡であります。 ◆江南文化財センター ☎048-536-5062

